

たどえリセットされても

心とは何か——たどえリセットされても——

5年 E・Gさん

この物語に登場する愛ちゃんは人間型のロボットだ。それでも、クラスのみんなと一緒に週刊すうかにて、本当の友だちのやうな存在になつていった。愛ちゃんはリセットされてしまつて、これまで週刊した日々を忘れてしまうことがわかつて、『心の中に愛ちゃんが存在するかぎり友だちだよ』という柚果ちゃんの言葉には胸がしめつけられるような思いがした。

特に心に残つたのは、学校で「将来の夢」の絵を書く場面だ。愛ちゃんは、希望に満ちた目で少女が将来を夢見ている絵を描いた。その絵を見た先生は、愛ちゃんがロボットだと知つていたため、「ロボットに人間の心なんてわかるはずがない」とい、その絵を破いてしまつた。その出来事をきっかけに、愛ちゃんがロボットであることが皆に知られてしまう。私はその場面を読み、ショックを受けた。先生の言葉はきっと、多くの大人が考えていることと同じなのだろう。「ロボットには心なんてない」と。けれども、愛ちゃんが描いた絵には確かに希望や夢を感じさせる魅力があり、それを見た子どもたちは心を動かされたのだ。先生自身もそれを感じたからこそ、認められずに絵を引き裂いてしまつたのだと思う。

本を読み終えた後、巻末に紹介されていた石黒浩さんの『アンドロイドは人間になれるか』も手に取つてみた。物語に参考文献が記載されているのは珍しいと感じた。そこには人間らしさや心とは何かの研究が書かれていた。ロボットは人間と同じように「心」を持てるのかという内容だったが、私は専門的なことはよく分からぬが、「心」とは形があるものではなく、人間の心だと感じられるものは相手が人間であるかロボットであるかに関係なく存在するかもしない」と思った。

愛ちゃんはリセットされて、柚果ちゃんたちの前にはもういない。けれども、その存在は心の中に残り続けている。

私は小学二年生の時に、仲の良かつた友だちが海外に引っ越してしまつた経験がある。会えなくなつた時はとても悲しかつたが、今でもその友だちと遊んだ思い出をよく思いだす。そつすると心が少し温くなる。だからこそ、愛ちゃんの存在が柚果ちゃんたちの心に残り続けることに、私は強く共感した。この本を読んで、私は「人間らしさ」とはただ人間としてそこに存在することではなく誰かを思つたりする心なのだと考へるようになった。愛ちゃんが描いた夢の絵は破かれてしまつたけれど、思いは子どもの心に残つていて。私はこれからも、大切な人の思い出を忘れず、自分の心の中で生き続けてもらいたいと思つた。